鹿児島県立博物館研究報告（第 30 号）：73 ～ 76，2011

種子島における大正３（1914）年桜島爆発記念碑等の現状について

鈴木　敏之 *

The Present Condition of the Monuments for the Taisho 3（1914）Mt. Sakurajima Eruption in Tanegashima

Toshiyuki SUZUKI

はじめに

鹿児島県内には桜島の大正噴火の記録として各地に爆発および移住等の記念碑が存在している。昨年度は過去の文献等をもとに主に県本土内に点在している大正３年の桜島爆発記念碑の現状の調査を行った。（鹿児島県立博物館研究報告書第 29 号）

大正３（1914）年１月の桜島大噴火で各地に避難していた桜島住民のうち，帰還不可能になった人々は故郷を去り，肝属郡や熊毛郡などの県内各地や宮崎県西諸県郡，そして遠くは朝鮮半島など各地に移住していった経緯がある。各地には桜島大正噴火の様子やその移住および開拓の記録を記した記念碑が今も残されている。

今回は種子島に移住を余儀なくされた方々が桜島大正噴火の当時の様子を記した記念碑の状態や碑文の調査を行ったので，ここに報告する。

（注）　碑文の〰〰の部分は，風化等により解読が難しい箇所で，現地での調査を基に文献等から可能なものは補って記載してある。碑文中の○については解読不能な箇所を示している。

１　種子島北部（西之表市）にある記念碑

⑴　記念碑（西之表市国上・桜園）

〔調査月日〕
平成22年
９月29日
〔所在地〕
西之表市国上
桜園神社内
〔建立月日〕
不明
（記載なし）
〔岩石の種類〕
砂岩

〔碑の内容〕
（表面）記念碑
大正三年一月十二日櫻嶋爆發
同年四月十三日移住　戸数七拾六
（裏面）記載なし

〔石碑の現状〕

表面はでこぼこで，大部分をコケが覆っている。碑文は一部不明瞭な部分もあるが，なんとか読み取ることができる。碑自体はほとんど成形されておらず，もともとの砂岩の原石に近いものを使用している。碑の土台付近に桜島の溶岩が多数配置され，築山が築かれている。右隣に部落創立七十周年記念碑が建立されている。

※部落創立七拾周年記念碑（写真右側）

〔建立月日〕
昭和59年
４月13日
〔岩石の種類〕
粗面玄武岩
（カンプトナイト）

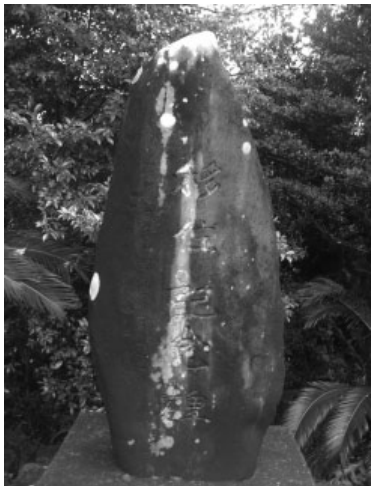
〔碑の内容〕
（正面）部落創立70周年記念碑
運命は自分が拓く
人生行路は汗と感謝で
部落創立七拾周年記念碑
大正三年一月十二日桜島大爆発
同年四月十三日移住桜園部落と名命
桜園集団移民第一号
今村源次郎二男医師今村源一郎書
昭和五十九年四月十三日
（裏面）記載なし

＊　鹿児島県立博物館　　〒 892 － 0853　鹿児島県鹿児島市城山町 1-1

⑵　移住紀念（西之表市古田・平松）
〔調査月日〕平成22年９月29日
〔所在地〕
　西之表市古田・平松公民館内
〔建立月日〕大正３年５月８日建立
〔岩石の種類〕砂岩
〔碑の内容〕
（表面）噴火（上面に横書き，他は縦書き）
　　大正３年５月８日建立
　　移住紀念
　　〇長〇山虎雄謹書
（裏面）記載なし

〔碑の現状〕
　表面にはコケが生えており碑文は読み取りにくいところもあるが，なんとか読み取ることができる。

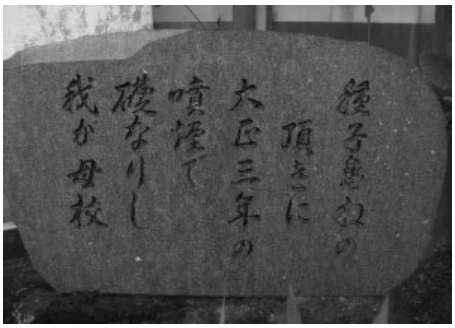
⑶　移住紀念碑（西之表市古田・二本松）
〔調査月日〕
　平成22年
　９月29日
〔所在地〕
　西之表市古田
　・二本松水田
　再編研修セン
　ター内
〔建立月日〕
　昭和23年
　４月１日
〔岩石の種類〕
　砂岩



〔碑の内容〕
（表面）移住記念碑
　　昭和廿参年四月一日建立
〔碑の現状〕
　表面にはコケが生えており碑文は読み取りにくいところもあるが，なんとか読み取ることができる。

２　種子島中部（西之表市，中種子町との境界付近）にある記念碑等

⑴　旧鴻峰小学校の石碑



〔調査月日〕平成22年９月29日
〔所在地〕　西之表市旧鴻峰小学校敷地内
〔建立月日〕不明（記載なし）
〔岩石の種類〕カンプトナイト
　　（台座は砂岩）
〔碑の内容〕
（表面）種子島ゐの頂きに
　　大正三年の噴煙で
　　礎なりし我が母校
（裏面）創立七十五周年記念
　　寄贈　第五十四回卒業生
　　以下　卒業生名（８名記載）
　　平成元年三月吉日建立
〔碑の現状〕
　裏面の卒業記念の内容から平成元年に建立された比較的新しいもので，文字もはっきりと読み取ることができる。

⑵　移住記念碑（西之表市中割）
〔調査月日〕平成22年９月29日
〔所在地〕　西之表市中割
〔建立月日〕不明（記載なし）
〔岩石の種類〕砂岩（台座は安山岩）

〔碑の内容〕
（表面）　大正三年三月十二日
　　移住記念碑
　　熊毛郡長　中山春美書
（裏面）
　裏面には多数の移住者名が記載されている。（コケや風化のため判読不明）
〔碑の現状〕土台になっている部分も含めて高さが２ｍもある大きな碑である。表面には碑名や移住した日の文字が大きく刻まれていて読み取りやすい。裏面には当時の移住者名が多数あるが，表面とは対照的にコケに覆われ読み取りが難しい。

⑶　石碑以外のもの～月読神社入口看板

▲月読神社（西之表市中割）

〔看板の記載内容〕
　中割地区は，大正３年の桜島の大爆発のおり罹災した人々によって開拓された新興の地であり，出身地（鹿児島郡桜島町横山）に祭られている月読神社の分社をこの地に新築して信心しているものである。月読神社は桜島の総産土神様で御祭神は月読命である。武の神・子を授かる神・健康に成長する神として御神徳があるといわれている。

おわりに（今後の課題）

　今回の調査により鹿児島に住む多くの方にこれらの碑の存在を知ってもらい，今後の石碑の保存や最近噴火活動が活発になっている桜島との共存について考える機会にしていただければ幸いである。
　県内各地にはまだ，大正噴火関係の石碑があると考えられる。今後もその現状を調査し，その記録を残すとともに，各碑の建立にまつわる経緯の聞き取りや文献の調査等を継続して実施し，桜島大正噴火の記録として残していきたい。

参考文献

・鈴木敏之（2010）大正３年桜島爆発記念碑等の現状について．鹿児島県立研究報告第29号（平成22年）：86-96.
・橋村健一（1998）桜島大噴火．春苑堂書店.

図　種子島の桜島大正３年爆発に関する記念碑の分布